

# 岩屋山 観音たより

発行所：和歌山県  
海草郡下津町橋本一〇六五  
福勝寺内  
電話 (073) 494-0311  
編集人：本多碩峯

### 激動の二十一世紀を生きる(二) 私達はこれで良いのだろうか!

今日米国の自由主義経済社会が全世界の常識となつていきます。

特に近世、コンピューターの発現は人間の石器時代に次ぐ人間にもたらした第二次の道具発見により、大きな変革をもたらしました。

次にインターネットの発現で人間が文字を発明したことに次ぐ情報の大変革が行われています。

今やこれらの恩恵(そつであつてほしい)により神が創り給ひ我々人間には秘密にされていた数々が証されつつあります。その中でも最も不可能とされていたヒトの遺伝子(DNA)即ち神が設計された内容の秘密が解明され、あらゆる難病、諸病の治療に生かされようとしています。

私達はこの様な社会的発展を快く歓迎できないことを悟った。積尊が生まれて二千年、人間生活の衣食住を取り巻く社会環境が大きく変わりました。

ここで私は自由主義経済社会による社会環境の発展を否定している者ではありません。これらの社会状況の変遷を仏教では「諸行無常」と言います。この世の移り変わりの現象を言います。この實在の現象を水に喩えまると風紋の波が移り変わる社会現象であります。しかし水そのものは一向に変わっていません。これを仏教では「諸法実相」と言います。

### 修行僧・同行二人 本多碩峯

コンピューターという道具といひ、情報革命という伝達手段といひ、これによる経済的成長といひ、これらは全て移り変わる無常なる現象です。

それでは移り変わらないモノは一体何なのか、本来永遠に移り変わる事のない実在即ち尊い実相を我々は見失つてしまつていないか。我々人間は果てしない欲望の中で移り変わる事のない実在こそ私達が永遠に求め続けている幸せの原点であります。

### 自然法爾(じねんほうに)

昨今、自然・環境という言葉が耳にしますが、一般に自然(しぜん)を西欧のnatureの意味であることが多い。仏教での自然(じねん)との根本的な違いは仏教で言う自然(じねん)は私達人間も含まれたところの自然なのです。

「他給自足」少欲知足」といふ言葉が御座いますが私はこの言葉の意味をこう解釈しています。この宇宙の環境に応じて他給即ち神様より与えられたモノであり、自ずと足る事を知ることが大切です。私たち人間の欲望の思うままに動植物を手中に入れようとしていないだろうか。

人間にとつて我慢するといふこと、悩んだときに「このままで今が足り

### 真理の花たば



山鳥のほろほると鳴く声聞けば  
父かとぞと思う。母かとぞ思う

前第六番安楽寺長老・大僧正・勲五等瑞宝章

一畠田禅峰書

.....  
.....  
.....

先日のテレビでハブの天敵としてマンガースを放し飼ひしたところマンガースが天敵どころか野菜や小動物を食い荒らす害獣であつたとか、植物においても人間智で判断事に大きな問題を提供されていること。ある動物学者は動物園そのものを廃止しなければならぬと主張する、あながち間違つた主張でない。

私の寺の境内では狸やリスやそして多くの小鳥をよく見かけます。動植物にとつて生殖するに不都合な環境の原因に私達人間の影響が大きい。それでも彼らは幸せに家族を、種を中心に営んでいる。殆どの小鳥がそつであるように、春になると卵を孵化するのに母親鳥が一生懸命、その間は雄鳥は綺麗な姿で母鳥や雛を大敵から守っている。敵が母鳥の巣に近づくと声高らかに鳴き威嚇する。(鶯の谷渡り等)  
私達は自然をよく観察する事、その環境を守る努力と同時に常に私達人間も本来

## 明日への装いを提案します!

寝装・和装・洋装・総合繊維卸

# 株式会社 マスメン

代表取締役 増田都司夫

本社

〒640-8376 和歌山市新中通2丁目8

TEL (073)424-4466(代表) FAX (073)436-6508

## 豊かなまちづくりに参加します!

### 株式会社 田淵建築設計事務所

### 無限供給の原理に基づく創造!!

代表取締役 木田耕蔵

本社

〒640-8287 和歌山市築港4丁目2-1

TEL(073)431-0261 FAX(073)431-3898

の幸せな生き方の原形を忘れてはならない。小鳥たちのような家族でしょうか。

母親は家庭の中心であり子供の育成や老人の介護の大切な役目を真剣に国家的再認識を必要としなければならない。母親の家庭での家事は国家的任務であること、その価値は現存する一切の手段に勝るモノと考える一人であります。

近代科字の中に大切なモノが埋没してしまっていないだろうか。

人間社会を振り返って見ますと今日の社会犯罪の原因は複雑な要因がありましよう。私は最も大なる要因は「干渉迄の家庭生活、社会生活によるもの」と考へるので。

即ち小鳥が自然界で完全に巣立って行くがごとく、我ら人間社会で子供の育成を家族の幸せで営まれているでしょうか。

### 結婚によって夫婦は幸福になるのか

お釈迦様は私達にこう言っているのです。「小欲知足で、喧嘩なごせずみんな仲良く自分の義務だけはきちんと果たして、ごく普通に生きてみませんか。」

私はインターネットで人生相談を受けておりますが、二十代の女性の相談が多く、特徴は独身の方からは「結婚すると幸せになると親や兄弟から聞けるのですが本心に幸せになるのでしょうか。既婚の女性からは「主人以外の方と交際しているのですが、主人とは別れたくないのです。どうすればいいのでしょうか。」

戦前は一種の運命のよつに結婚を受け止めていたように思います。ですからこんな苦しいことがあっても自ら勝ち取る気持ちがあつたように思いますが、戦後は西洋の

文化と接して影響を受け旧来の結婚観が急激に崩れ去り、自由恋愛を賞賛し、個人主義的傾向が強くなつてくる

と、結婚よつて「幸福」になるという願望が強くなつてきた。

ところが実際はそうではなさそうだと

いう感じが生じてきて、シングル・ライフ志向が出てきた。三年の恋愛期間で結婚して半年で離婚、恋愛期間中はプラトニックラブで実生活について考えたことも無かつた二人。

初めて実生活への反省は自己が如何に他に依存して生きているかを知ることが苦難を乗り越え幸せな生活を歩む鍵だと思ひます。

楽しみを求めること、人間はその欲に引きずられてしまつ傾向にある。子供が生まれる、それはそれでたいへん結構なことであつてたいことですから親は子供と一緒に遊んでやらせてもらつて気持ちよく暮らせばいいものを「私は子供に立派な教育させ、一流の学校に行かせ、有名な会社に行かせるのだ」などと余計な欲を募らせて、頑張つてしまつ。その為には子供は勉強、勉強の余計な努力でストレス。父親は子供の教育費のために給料のいい会社に転職、日曜祭日返上の仕事。

そんないらぬ苦勞せず子供と等身大の人生を送ることの大切さ、子供が悩んでいれば子供の立場になつて一緒に考えてあげられる、時には親の立場から明るく楽しく、デイスカッション風に話し合えば良いのではないか。私達夫婦には子供がいなく、三十代から四十代にボーイスカウト活動で子供を学び、父親や母親の立場を学んだ。ある意味で、

人間の幸せは母親を中心とした普通の家庭に見い出せると思ひます。

### 浴衣姿でお琴の音

私自身は六人兄弟の長男ですが、終戦後父が元軍人の公職追放で大変な苦勞の中で、普段は仲の良い、兄弟喧嘩が始まると母親が怖くなつて近所に助けを求めたそうです。自分が社会人になつてその近所の人に聞いた話に「君のお家は、あの頃兄弟がよく喧嘩してお母さんが助けを求めに来ました。兄弟喧嘩はその内仲直りしますよ。」と慰めたモノですが、度々のことで、夏の野良仕事も一段落、本多さんの家を見に行つたら何とお母さんが座敷で浴衣姿でお琴を弾いている姿に驚くやら関心するやら・・・と話を聞いたのです。

昔の日本女性は子沢山に負けず、子供と戯れる強さどどんな環境の中でも自分を取り戻す方法を知つていたように思ひます。

### 自己実現(アライゼーション)

他を理解するためには自分を理解していかなくてはならない。このことは自分が知つていた「私」というのは一段と異なる深い水準で自分自身を知りそれを生きることの意味します。弘法大師空海は大日経の言葉で「如実知自心」即ち自分自身の本当の心(仏心)を知ることといつていますが、自己

実現という言葉は非常に重宝にして実現が必要になつてきます。最近自己実現という用語が非常に浅薄に受け止められて、自分がやりたいと思つていふことを実行するといふような意味で用いられている。ここで大切なのは、自己実現とは本人にとって不可解であつたり、そのためにはそれまで経験したことのない苦痛を体験したりするよつなことである。それまで自分を

## 幸せライフのお手伝い!

総合建設業

### 株式会社 酒井技建

代表取締役 酒井 武 義  
〒640-0416  
和歌山県那賀郡貴志川町長山277-68  
TEL(0736)64-6776 FAX(0736)64-8908



## 皆さんのスーパーみち屋

株式会社

代表取締役 道畑 勇

本 部 和歌山市岩橋7 2 9 番地の6  
TEL ( 073) 473-4197  
松 島 店 和歌山市加納2 4 6 番地の1  
TEL ( 073) 474 - 3500  
貴志川店 那賀郡貴志川町大字北山5 1 7 番地  
TEL ( 0736) 64- 7020

支えてきた人生観や世界観が崩壊するほどの体験をすることになる。それまでの自分の人生観によっては許されない、あるいは相入れないような行為を自分自身がするが、配偶者がするが、家族がするが、それを知りあまり耐えられぬ時は、自殺とか、世を棄てるとか、離婚をするとかが考えられる。この状態を後になって振りかえるとき、深い意味があったとされるのですが、決して「幸福」を選んだと呼べない。このことは離婚、再婚を全て無意味と言つてはならない。離婚、再婚によって素晴らしい結婚生活を築いている人もある。すべて個々の例によって異なることであり、一般的ルールを立てることは出来ない。

**仏教は救(ゆる)す**

一般に長所と短所が裏表になっているので、夫婦に関する場合、攻撃する側が相手の欠点を取り入れる。「妻がケチケチしている」夫側が少し節約するようになればと思ふ。妻が夫に「夫はくすぐくすぐしている」と攻撃するとき、妻がもう少しのんびり生きる生き方をするとか、何だか自分の生き方を棄てて自分の人生を犠牲にしてしまつように感じます。ある人は現在を癒しの時代と言っていますが、このことは攻撃される側の立場になることでもある。

仏教は癒しより、救(ゆる)すことを教えるの根本にしているのです。自己実現には犠牲を伴い、このことが理解できると、むしろ犠牲などと考えなくなるのです。人間が何らかの自分を越える存在を感じ、それによって生じる現象の数々をあくまでも避けることなく観察し、理解しようと努める。そんな姿が自分を越える宗教性につながるのではないのでしょうか。

**「衣・食・住」**

日本文化を語る場合に衣食住欠くこと出来ない。

「衣食住」は日本人の中心であつて広大な広がりを感じますね。曼陀羅なんですね。人間中心主義でなく大自然と共に生かされていくことが理解できます。

**「衣」**

縦糸を「真理」、横糸は智慧を顕していると言います。日本伝統の女性のきものは世界で最も美術的価値があり、年代を超えて何時も新しい感覚がある。それを着る女性も洋服にない、何とも言えない落ち着きと周囲の現象が新鮮に感じてわが心に飛び込んでくるように感じるとか。伝統的な絵模様は横糸だけで描かれる。その技術に今日では人間国宝とも言われる美術家、染織家、織師のそれと匠の匠の自然(じねん)の心の調和の顕現です。

平安期(西暦七八四年-一一八六年)首飾は京都、平安朝こそ宮廷は芸術にとつて文学にとつて輝かしい時代でありました。平安紀染色、機織り技術が花鳥風月を衣に展開し、徳川時代(西暦一六〇三年-一八六八年)に頂点を築いた「着物」、四季折々に移り変わる自然の風景は、私たち日本人に豊かな感性を育んでくれました。

花や水や鳥や、風にさえ色を見ていた先人達の創り上げた色彩表現、これらの日本女性の姿でもっとも美しいのは着物や帯の色彩調和であり、現代の着物は

昔礼服(大袖)の下に着用された小袖が安土桃山に着へと変わった衣装です。日本の伝統的きもの色に大自然の色が当然のごとく使われそのきもの色を日本の色と言ひ変えたい。

ここでポルトガル軍人で明治初期に来日(一八五四-一九二九)神戸大阪総領事を務め日本人女性と結婚、余生を徳島で送つたウエンセスラオ・デ・モラエス氏の著書「日本精神」で心豊かな庶民の日常生活を紹介した記事がある。「夏は蒸せて冬は寒い。だがこうした氣候の状態を日本人は巧みに調節する事を知つている。真夏の間、太陽が燃えて空気が蒸せるとき、衣服が極端な変化を受ける。家の中にいるときには男達は殆ど裸で過ごし、ただ大切な場所に締め付けた恥かくしの、というより清潔な細い帯である「褌(ふんどし)」を使うだけだ。女たちは腹から膝にかけて布を巻いている。それで働き、それで話し合い、それでちょっとした快い午睡(こすい)もする。毎日夕方になると自宅の風呂を楽しむが、それには湯の一杯はいつた大きな桶を用い、家族の各員がその席順に従つて次々はいる。この桶は普通裏庭の露天に近所の人たちがに見られないように植え込みの間に据えられている。

ほんの二、三ヶ月前の真夏に目にした不思議な場面が今思い出されてくる。すぐ隣の大工が仕事から帰って、むろん真裸で桶に入つた。そして、きれいな青銅で造つた仏像かなんぞみたくに筋肉の盛り上がった、がっちりした、美しい、黒い肉体を見せびらかせていた。それから三人の小さい娘一三歳、五歳九歳も、やはり裸で父親の身体に登つては、それから、おすお降りて煙りだつ湯に浸りながら面白がつていた。妻は自分の入る番がくるのを家の中で待っているのだ。

わたしは見えなかったが、慎み深い笑い声をたてていた。まったく、それはもし湯気も笑い声もないとすれば、岩穴の窪みの上で海の平和に戯れる海豹の家族みただった。体を洗い終わって香水をつけ髪を飾ると、家族はきれいに洗濯した木綿の簡単な着物を着て玄関前の街頭に出、縁台を持ち出してその上にみんな腰掛けて、団扇(うちわ)を使って涼んだり、蚊の群を追つたりして喋りあひながら、かわい煙管(きせる)で煙草を吸つた。……が、やがて冬がくると、すると、事情の許す限り家にひつ籠もつて、綿の入つた着物を幾枚も重ねて着る。火鉢に火を起こして、老人たちはその側を離れない。そして、夜、人々の寝る幸福な時がくると、その眠り憩う長い時間を気持ちよくさせる特別な火鉢なる炬燵(こたつ)を寝床に入れる。……

日本の女性は誰の前でも子供に乳房をふくませる、家の中で暑いときに、家の中で一心に働いているときに、それは、戸外を通行して内を覗く者の眼に裸体に近い姿で映るかもしれない。だが、誰もやさ男を惹きつけてある欲望を起こさすだけの目的で着物の袖から腕を露わにしているとは思ひもしない。日本の男女は相愛とか眼くばせとか媚笑(びしょう)とかいった西洋人たちが実に巧妙に行つていいるあの複雑な性的外交を全然知らない。日本の女はどんな身分のもでも故郷の街路を通つたり、神社仏閣とか芝居とか儀式とかといった晴れの場所に出したりするときには、想像以上に淑(しとや)やかで上品である。が、また、とても落ち着いた真面目でじみだ。「次号」へ

蓮如上人ゆかりの

名号堂で供養祭

去る六月十八日当福勝寺の境内に建立されている名号堂で縁起の蓮如上人並びに喜六大夫への供養祭を多くの参詣者の集いの中、浄土真宗浄満寺・住職・藤田隆三師を導師、浄土宗阿弥陀寺・住職・片山孝雄師、真言宗福勝寺・僧侶・本多碩峯師の読経、後、浄満寺の藤田住職の名号堂と蓮如上人ゆかりの縁起のご説明を頂き、参詣者一同新たに感銘の中に終了しました。

尚、当寺蔵書で名号堂(本尊、蓮如上人直筆の六字御名号御軸が一時町立歴史民族資料館より里帰りしました。

当福勝寺檀家役員(総代土井康生)の蓮如上人ゆかりの名号堂の意義新たに傷みが酷いお堂を役員一同、屋根瓦をはじめ家屋の修復の結果立派に復元されました。

寝屋川市医療法人和敬会・副理事長・寝屋川南病院・薬局長 南 桂子氏により御奉納頂きました、直筆「六字名号」



の入佛開眼供養も執り行われまし  
た。南桂子様にご報告致し、早速感動のお返事を頂き



南 桂子氏御奉納「六字名号」



浄満寺職・藤田師のご説法



寺総代土井康生氏先導・僧侶入堂

ました。下津町の橋本地区民の皆さまからも喜びのお言葉を数々頂きました。万教帰一真言宗の境内に蓮如上人を称える浄土真宗のお堂があり、この度、地区の浄土真宗、浄土宗それに真言宗の僧侶が一堂に会して読経されたことは何か将来への幸せを招く予感すら感ずる、宗派を越え、太陽の恵みを生きとし生けるもの自然を神と仰ぐ、当地には柑橘の神様田道間守を祭る橋本神社がある、神と仏が融合する素晴らしい相(すがた)がある。

早速、仏前に報告させていただきました

南 桂子

梅雨の雨に樹々の緑も一段と鮮やかさを増しております。日々のおつめありがとうございます。

昨日はお手紙、写真、夕刻には枇杷をお届け頂きましてありがとうございます。

お手紙を拝受致しますと涙がこぼれんばかりでございました。早速仏前に報告させて頂きました。

ありがとうございましたと恥ずかしさが頭の中をまわっております。地区の皆さまへどうぞよろしくお伝え下さいませ。私は六月十八日、福島県に旅行中として会津の勝常寺にお参りさせて頂き、本堂で読経をいたしました。不思議な御縁を感じております。一緒に旅行しました方がお坊さまでしたので、あまりのうれしさでとりとめない内容になってしまいました。厚くお礼申し上げます。お目にかかれます日を楽しみに致しております。天候不順のおりからくれぐれも御自愛くださいますように、奥様にくれぐれもよろしくお伝え下さいませ。

会津の絵ローソクをお届けさせて頂きました。

六月二十五日  
本多碩峯様

合掌



書簡写し



有限会社 ミヤタケ

代表取締役 宮下隆博

〒640-8329  
和歌山市田中町4-119  
TEL(073)422-2327 FAX(073)436-5598



人に優しい音声発生装置!

有限会社 日本メディテックス

代表取締役 山口昭昌

〒641-0054  
和歌山市塩屋5丁目5番43号  
TEL(073)446-2009 FAX(073)446-3696

# 心を癒すもの それは「書」

南 桂子

私は三十歳になったころ「書」を習いたいと思い始めました。でもどこに行けばよいのか、どなたに聞けばよいのか、



わからないまま日が過ぎました。父(舅)が亡くなり、次いで母(姑)が亡くなりました。とき、母は父のために写経をしていたことを知りました。大好きな母でしたので、私も母のために写経を致しました。菩提寺の方丈様に見ていただきましたとき、いきなり「お稽古したいのですしたら、私の師を紹介させてもらいますよ」とおっしゃって下さいました。探していたときにはわかりませんでしたのに、「ご縁の不思議さ」がありがたさをいたく感じさせられました。

そうしてお引き合わせいただきましたのが伊藤東海先生でした。先生は明治二十六年のお生まれの漢学者であられ、『書之研究』主幹のち『学書大道』を創刊され、戦後は思想浄化運動に力を注がれ、「誠に生きる道をお説きになりました。皆さまが一番よくご存じな書は、筆書きの「住友銀行」のあの力強い文字であります。先生は字を

先生は字を習うのでなく、書道を極めるのだとおっしゃいます。礼儀の大切さを身をもって実践なさいます。

先生のお教えで頭から離れないことの一つは手ぬきをしないことです。どんな小さなことでも、「これはこういう風にするんだよ」とおっしゃりながらやって見せて下さいました。あまいな返事をしますとすぐ見抜かれまして、「ほっておいたらいいから」と自らして下さいました。今も手ぬきをしたいなあと思いつつ、先生のお願いがすつと浮かんでまいります。二つ目はみんなに公平であるということです。人を区別されることなく、古い弟子も新しい弟子も同じ目を見て下さいました。入門したばかりの者には痛いほどわかりました。先生の前で先輩の書かれたものを見せていたるときは、とても勉強になりますが、自分のものを先輩の前で先生に見ていただくときの恥ずかしさはたとえようもありません。背筋から冷や汗が流れるのがわかることがたびたびでした。

入門して間もなく先輩に「何年くらいですか」と尋ねたときです。「私は三十年なの」その隣の方は「私はまだ新しいの、二十年かな」と言われました。普通でしたら気が遠くなるはずですが、そのときはなぜか冷静で八十歳まで続ければ私もそのように答えられると思ひ、いつも先生の横に座らせていただきました。お手本をお書きになるときは「ええかよ、こつこつ気持ちで書くんだよ」とおっしゃって、一人一人にその場でお手本をそのときの呼吸まで感じとらせていただいたものでした。も先生ならこつこつ格好でこつこつおっしゃりながらお書きにならるだろつと思ひながら、形だけ一人前に真似ております。先生は昭和五十八年に亡くられました。私は先生の弟子でよかったと心の

底から思っております。その後は岡田東華先生(伊藤東海先生のご息女)に教えていただき、今日に至っております。両先生の人格に引きつけられまして、卒業のない趣味の授業を受け続けております。

両先生のご方針は字は形でなく心だということ、大きな字が書けても手紙が書けなければ役に立たない。また仮名だけ書けても漢字が書けなければ生活の中で生きていけない、日常の中で生きてこそ書道の意味があるとおっしゃいます。しかし、なかなかできないことです。でも最近少しは書に接するよるこびがわかってまいりました。かなの臨書などいたしておりますと、作者はこんな気持ちで書いたんだろうとか、こんな性格の人ではなかったんだろうとか、こんな息づかいで書いていたのではなかったらどうかなどと、一人勝手に人物評かをしながらか稽古を続けております。

よくストレス、ストレスと耳にしますが、昔の人もきつと悩みがあったに違いありません。現在よりももつと質の違った悩みの中で生きねばならなかったのでしょうか。その中で祈るような気持ちで「書」を書くことよって、乗り越えたり回避したりしながら最後に昇華していたような気がいたします。そう思えますと自分の悩みなんて小さいもののように思えてきまして、いつの間にか静かになりました。書くことの苦痛よりも、その過程において慰められたり、癒されたり、諭されたりすることの大きいことを感じております。

入門のきつかけが写経でございましたが、十年ほど前に先祖の残してくれた写経に出会いました。文久三年三月三日(一八六三)と記されておりました。二一〇年

も経てなおはっきり残る文字を見て、字は生きていると思ひました。そして、とても作者に会いたい気持ちになりました。心して写経を始めましたのはこのときからで、それ以来薬師寺さまに通うようになりしました。から薬師寺さまからも人にやさしいことと、手ぬきをしないようにいうことあるごとに感じとらせていただきました。両先生からも薬師寺さまからも同じ道を示していただいておられますので、迷うこともなくこの道を進んでまいります。

私は教えることはとても下手ですが、同じことを繰り返してやることならできるかもしれないと思ひ、数年前から月一回やりたい人が集まって写経をいたしております。同じことを一回、二回、百回、二百回とやっておりますと、みんな字がどんどん美しくなるのがわかります。繰り返し繰り返し学ぶことがいかに大切かを痛切に感じております。

なまけそうになる心を年一回の書道展(遊神会)がブレッシャーをかけてくれます。なかなか上達はいたしません、紙に助けられ、筆に助けられ、墨に助けられながら、心を込めて字を字を書け続けたいと祈る毎日で御座います。

(大阪府寝屋川市、医療法人和敬会、副理事長・寝屋川南病院・薬局長)



紫陽花

### 紀州が育んだ高僧徳本上人「話の泉」 豆三十粒の立行

徳本上人のプロフィール

紀伊の国日高郡志賀村久志(現和歌山県日高郡日高町久志)の人。姓は田伏氏(一説布施氏)、幼名三之丞、名連社号譽称阿と号す。父は三大夫、母は塩崎氏。宝暦8年6月22日(1758)を以て生る。4才隣家の小児を急死せるを見、夙に厭欣の心を生じ、稚戯にも唯仏乘を慕う。9才出塵を乞うも父母許さず、16才自ら勤行式を定めて精進念仏し、又農事の余暇、毎月大滝川月正寺に籠りて別時念仏を勤め、時に又老翁より一枚起請文を授かり、益称名を励み、18才以後常坐不臥を例とす。「文政元年(1818)9月宿痾増発し、自ら臨終近きを知り、15日弟子に命じて別時念仏を修せしめ、23日諸弟に遺囑して曰く、我生涯一枚起請文を以て自行化他の鏡とす。汝等又等しく此の遺訓を守れと。病革ますと常坐不臥を廢せず。10月6日齋を取り高声念仏して寂す。年61歳。辞世に「南無阿弥陀仏 生死輪廻の根をたば 身をも命をもしむべきかは」とあり。世に徳本行者と称す。「仏教大辞典より

浄土宗の徳本上人は四歳の時、隣家の子どもが死んだのを見て、いたく無常の思いに打たれて出家した。  
『書夜念仏のほか、他事なし。つねに難行苦行をなす。豆三十粒をもって、濱べにありて、日々一粒ずつくらいて、三十日立行をなす。』  
立行というのは立ったまま専称念仏することでありませう。これもまたひどい。しかも、三十日の間、一日豆一粒食べるにすぎない。大根気の人でなければ、徹底しなきゃ

その後山にかくれて、更に世に出なかつた。穀物を避けた。とありますから米麦をはじめ五穀を一切口にせず木食せられた。木食は、たとえば、松の葉のようなものを食べていたのだと思えます。  
ある日、紀州藩徳川大納言南龍候、これは徳川家の一つ。家来を従えて崖に行き、谷をへだてて向こうをみると、石頭の上に端座合掌しているものがある。頭の髪も、顔の髭ものび放題に長くのび、身には衰みたいものをまとい、人間ともけものともつかない姿である。  
『なむあみだぶつ、南無阿弥陀仏』念仏の声がたえまなく聞こえて来る。殿様が、  
『あれを射よ!』  
と下知された。家来の者ども、一せいに弦を鳴らして矢を放つたが、みんな当たらない、外れてしまった。  
『はて、何者か、つき止めて来い!』  
家来が谷をわたり、岸壁をよじ登つて質(ただ)して見ると、誰だろ、徳本上人であった。城内に伴つて帰り、大事にもてなされた。  
後に江戸に迎えられ、徳川家にゆかり深い伝通院の住職となり、道徳の誉れ一時に四方に高くなつた。 終わり

「無門関」第一則  
「莫作虚無算莫作有無會」  
この無とは、何も無いという虚無の無でもなければ、「有」に対する「無」という

# 無

「無門関」第一則  
「莫作虚無算莫作有無會」  
この無とは、何も無いという虚無の無でもなければ、「有」に対する「無」という

相対的な無でもない。それは人間生命活動そのものを意味している。人間の意識の介在する事のできない絶対の事実、これを「無」という。この「無」のはたらきを、仏教では仏の本性すなわち「仏性」という。従つて、「仏性」とは、「有」とか、「無」とかの問題ではない。生きていること自体が、「仏性」のはたらきであります。日常生活のことごとくを、あらゆる執れからはなれた「無」のはたらきにまかせざるなら、この現実が無限の

### 岩屋山 福勝寺、所蔵品

#### が公開展示される

#### 「加茂谷の歴史と文化と生活」を探る

- 一、加茂谷のはじまり
- 二、加茂谷と加茂氏
- 三、福勝寺と蓮如
- 四、加茂谷とみかん場所:

#### 下津町立歴史民族資料館

下津町上八六

長保寺境内

電話四九一丁四八二六

期間：平成十一年九月末日迄



歴史民族館

価値を潜んでいることに気づくであろう。

### 岩屋山 福勝寺の行事案内

- 千日参り
- 八月九日(水) 午後七時
- 千手観音参り
- 八月十七日(木) 午後七時

#### 編集後記

境内の紫陽花も咲き終えようとしております。今年も既に挿し木を三百本程終えました。 当県本宮町ご出身、岐阜在住の川瀬由里さんがご参詣頂きましたが留守中故失礼にも残念で御座いました。 高野山大学での受講が三ヶ月になり、

手ペット仏教と明治以降の日本の仏教界に明るい奥山直司助教授から興味ある講義、明治維新の日本国家の欧化進行の中で明治政府による新国家建設、永年神仏二つの宗教が融合、習合されてきた世界に例のない素晴らしいこの関係を廃仏毀釈で神道を国家宗教とし、日清・日露戦争の勃発、仏教界は従軍布教という名の下に協力、今日もそうであるが、家庭内での女性の育児、家庭教育、介護、妻の任務に対して、指針がなされていないことに、疑問を抱きながら、明治時代の僧侶は宗派を越えた立派な交流を、海外へ目を向けられた事実を学び、感動新たに致しました。当寺でも六月、浄土真宗、浄土宗、真言宗の僧侶が一堂に会し法会を執り行った事が各寺の檀家信徒のご愛念の賜と衷心より感謝申し上げます。 合掌